



## JAFIA 委員長就任にあたって

今任 稔彦

九州大学大学院工学研究院 応用化学部門

昨年の 12 月に開催されました日本分析化学会フローインジェクション分析 (J A F I A) 研究懇談会の委員会におきまして、酒井忠雄委員長 (愛知工業大学工学部) の後任に推挙されました。これまで約 7 年に渡り、酒井委員長のもとで会誌の編集委員長として本懇談会の運営の一部に携わってまいりましたが、酒井先生の運営手腕には大変感服しておりました。特に、本研究懇談会が、フロー分析化学の拠点として国外からも高く評価されるようになりましたのも、酒井先生の積極的な国際的な活動と強いリーダーシップの賜物であったと思います。酒井先生には到底及びませんが、会員の皆様のお力添えをいただき、本研究懇談会がますますアクティブに活動の場を広げ、フロー分析法がますます発展していくよう尽力していきたいと存じます。

思い起こしますと、1984 年に恩師であります石橋信彦先生を会長として、現在の J A F I A の前身であります「フローインジェクション分析研究会」が創設されました。当時は、九州大学理学部の与座範政先生と石橋先生の助教授をしておられた今坂藤太郎先生が庶務的なお仕事から会誌の編集作業までされておられ、私は石橋先生に言われるがままお手伝いをしておりました。そのお手伝いのお蔭で、多くの F I A の研究者の方々や F I A 装置のメーカーの方々とお知り合いになることができました。1990 年に上野景平先生を組織委員長に、石橋先生を実行委員長にして Flow Analysis V が熊本で開催されることが決定されましたが、その際、開催母体は日本の一研究会よりも

日本分析化学会の方が良いとの判断からが、現在の研究懇談会に移行しました。1991 年 8 月 Flow Analysis V の開催中に石橋先生が亡くなられましたのは、大きな衝撃でした。大倉洋甫先生 (九州大学薬学部) が第 2 代委員長に就任され、1994 年に第 3 代委員長の本水昌二先生 (岡山大学理学部) にバトンタッチされました。いわゆる第二世代へのスタートを切りました。2004 年までの 10 年間に本水委員長のもとで本研究懇談会の国際化が進められ、Chiritian 教授が行われていた I C F I A との共同開催が現在も引き続き行われています。F I A の実例を「F I A 技術論文集」として編纂され F I A のユーザに極めて便利な資料集として重宝されています。2005 年から第 4 代委員長として酒井忠雄先生が就任され、前述のようにますます国際化を積極的に推進されました。タイの F I A 研究グループとの学生交換交流や Pacificchem でのシンポジウム、特に忘れ得難いのは 2008 年に名古屋で開催されました I C F I A であります。極めて多くの参加者がありました。その他、流れ分析の J I S 化、F I A の実用書の編纂など数多くのご貢献をいただきました。事務局として酒井先生を支えられた手嶋紀雄先生 (愛知工業大学) の粉骨砕身ご尽力にはお礼の申し上げようがありません。

歴代の委員長の方々の跡を継ぐのは、誠に重い責任を感じておりますが、講演会や会誌による情報発信、国際会議への積極的な参加などを通じて、皆さまとともに本研究懇談会をますます活発なものにしていきたいと存じます。